

「ケータイ」被害が子どもをも守れませんが

子どもに携帯電話は、本当に必要でしょうか。携帯電話は、いつでもどこでも情報が得られて大変便利ではありますが、その分、危険性を含んでいることを忘れてはなりません。特に、使用経験が少ないのに好奇心旺盛な子どもたちを狙った犯罪が増えています。私たち大人は、本当に「ケータイ」被害から子どもたちを守る事ができるのでしょうか？

- ▼問い合わせ
播磨町教育委員会学校教育グループ ☎079(435)0545
- ▼ネット被害の相談窓口
○神戸地方務局 ☎078(392)1821
- 兵庫県警察本部サイバー犯罪対策係 ☎078(341)7441

毎日3人以上の子ども(中・高校生)が「出会い系サイト」の被害者になっています!!

平成19年の「出会い系サイト」に関係した事件の被害者の多くは女性で、しかも中・高校生の子供です。「弱いものを狙う」という「出会い系サイト」の犯罪の悪質さを示しています。

表2 「出会い系サイト」に関係した事件の被害者の年齢と性別



被害者の「出会い系サイト」へのアクセス手段は、96.5%が携帯電話です。中・高校生も当たり前のように携帯電話を持つ時代。でも、インターネットの様々な利便さだけでなく、犯罪に巻き込まれる危険が潜んでいることをしっかり認識しましょう。

架空・不当請求メール

興味本位でいろいろなサイトにアクセスしている内に、利用していないサイトの使用料やクリックしただけでの使用料をメールでしつこく請求されたりすることがよくあります。

身に覚えのないものや、有料とする明確な表示のないものについては、支払う必要はありません。

掲示板での誹謗中傷

ホームページや掲示板に、明らかに個人の情報を掲載して誹謗中傷するケースが増えています。「学校裏サイト」という掲示板があり、そこに特定の子どもの対象に誹謗中傷が書き込まれて大きな社会問題となりました。ネット上での誹謗中傷は不特定多数の参加によりエスカレートすることが多く、被

▼問い合わせ

害を受けた子どもの精神的な苦痛は計り知れないものがあります。安易に書き込みをしないで、被害者となってしまっただけでなく、取り返しのつかない事件の加害者になることもありうるのです。

誹謗中傷の書き込みを見つけたら、すぐに下記の関係機関などに相談してください。掲載されている内容が人権侵害になっている場合、掲示板管理者やプロバイダなどに情報の送信を停止させることができます。(「プロバイダ責任制限法」)

出会い系サイトによる事件

興味本位や寂しさから出会い系サイトへアクセスして、顔も知らない人と文字だけで交流し、簡単に相手を信用して自分の情報を伝えてしまつことが急増しています。

それがもとで、実際に会って犯罪に巻き込まれてしまうことも少なくありません(表2参照)。このケースは、子どもの命にかかわる重大な事件につながることもあり、早期発見早期対応が肝要です。

出会い系サイトには「見ない」「書き込まない」「絶対に会わない」の3原則を徹底し、そういうサイトにはアクセスできない「フィルタリング」が必要です。(播磨町のフィルタリング率は約5割)

大人が、18歳未満の子どもに性交や援助交際を求める書き込みをする事、逆に、18歳未満の子どもが性交や援助交際の相手を探す書き込みをすることは、「出会い系サイト規制法」で禁止されており、処罰の対象となります。

11月16日(日)に「情報モラル講演会」が開催され、講師の三好成明氏(兵庫県インターネット安全安心利用推進協議会会長)から、映像を交えて、具体的な「ケータイ被害のお話がありました。



講演を聞かれたあるPTA会長は、「私の知らない世界で、びっくりしました。私の子どももケータイをよく使っていますが、何をしているのかよく分かりません。しかし、子どもに見せたくないサイトや映像が、あんな簡単に見られるとは思いませんでした。今日は、

じっくりと子どもと一緒にケータイの使い方について話し合いたいと思います」と、驚いていました。皆さんは、子どもが携帯電話をどのように使っているのか、把握されていますか？

★増えていく「ケータイ依存症」

食事中にケータイでメールをすることが家族に対して失礼だとは思わない。そして食事時はもちろん、トイレや風呂場にも、そして寝るときも肌身離さず、まさしくケータイを携帯しなくては心が落ち着かない子どもが増えています。

また友達同士で、メールを受信から5分以内で返信しなければ、仲間外れという「5分ルール」を作って、自らをケータイ依存症に追い込んでいるグループも見られます。大人が仕事上で常に携帯する場合は違い、人と人のコミュニケーションをケータイに支配されてしまっている状態が問題なのです。このような状態に陥ってしまつと、生活習慣の乱れや学力低下、そして家庭生活はもうろん、学校生活や将来の社会生活にも支

障をきたすようになってきます。

★今こそ、人と人の生でのコミュニケーションを!

ネット社会では、溢れんばかりの情報が瞬時に広範囲に伝わっていきます。その情報に振り回されないために、自分にとってどんな情報が必要なのかをよく考え、正しく取捨選択していくことが大切です。

家庭生活や学校生活では、やはり人と人とが顔を見合わせて話をする事を基本にしていかなければ、心の安定や真の人間関係づくりにはつながってきません。

★子どものケータイ(携帯電話)の所持率が急上昇!被害も増加!

ネット社会と言われる日本において、子どもたちのケータイ所持率は、小学生までに27%、中学生53%、高校生では95%とされています。播磨町での小・中学生によるアンケート調査(表1参照)によれば、ほぼ前記のデータと同様の傾向にあり、これからも益々所持率が上昇していくことが考えられます。

使用については、電話だけではなくほと問題はありますが、メールやインターネットを利用することで、被害を受ける危険度が急激に高まります。そしてときには加害者になることさえあるのです。子どもたちがどのような被害にあうのか、また被害にあわないためにどうするのか、家族みんなで考えていかなければなりません。

情報モラル講演会に参加した各中学校園PTA約130人が、「ケータイ」からつながる危険な世界に驚かされた

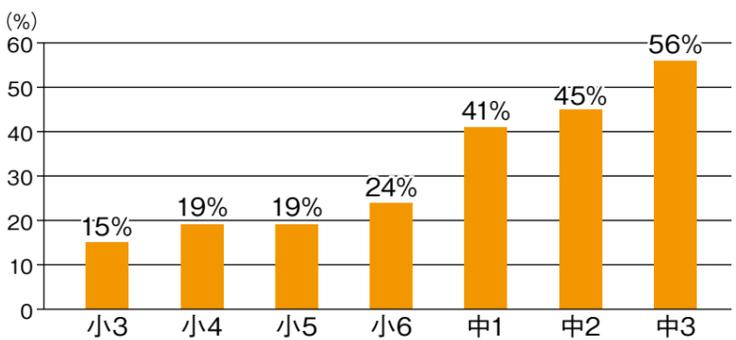


表1 播磨町小・中学生携帯電話所持率 (H20.11)

小学校最後の音楽会



▲有終の美を飾るべく演奏に励む児童

播磨小学校 6年生

初めてCDを耳にした時、その曲のスケールの大きさに驚き、楽譜を目にした時には、できるんだらうかと心配になった、6年生の合奏曲「パツカナル」。

夏休みの自主練習、運動会練習の合間をぬってのパート練習。おしまいには、業間・昼休みも、寸暇を惜しんでの練習。

11月11日(火)、連合音楽会で初披露し、してきた努力に大きな拍手のごほうび。

翌12日(水)、校内音楽会で全校に、そして15日(出)の音楽会では、おうちの方々に聴いて頂きました。6年生として、やり遂げた満足感に、子どもたちも浸ることができました。

最後は「ふるさと」のリコーダー奏でうちの方々をお見送りしました。名残惜しげにその列が進まないことにも感激、感謝です。また子どもたちは、一回り大きくなり中学生への歩みを一歩進めました。

校内美化と緑化活動



▲ボランティアで除草作業をしました

播磨中学校

生徒会役員たちが呼び掛けて、9月24日(水)・25日(木)に校内美化及び緑化活動が行われました。2日間でのべ81人が参加。初日は除草作業、2日目はプランターや鉢に花の苗を植えました。除草作業もボランティアで参加して

いるだけあって、皆とても積極的に活動しました。花苗植えでは、和やかな雰囲気の中、秋から冬にかけて美しく咲く花々を丁寧に植え込んでいきました。出来上がったプランターは玄関の両側や昇降口周辺に置きました。生徒会役員が中心となって、今後の水やり作業などの仕事を続けていく予定です。



楽しかった音楽会



▲それぞれの思いを胸に歌います

蓮池小学校

11月15日(出)に校内音楽会が行われました。体育館は、保護者の方たちで満員でした。この日のために子どもたちは毎日一生懸命に練習してきました。難しい指使いもメロディーもみんなと一緒にクリアしました。力を合わせる感動が生まれることを学びました。

「おんがくかいがんばったよ。ママが、『じゃうずにひけてたよ』っていつてくれてうれしかったよ。」
1年生の作文
○体育館の中は、すごいっぱいの人がいいて、緊張しました。本番はまちがえませんでした。ほんとよかったです。
4年生の作文

○今日の音楽会は精一杯、力を出して演奏できたので、すごくよかったです。心に響いたのかと思ってうれしくなりました。演奏しているときに6年間のことを思い出していました。
6年生の作文

友達っていいな



▲みんなで歌うと楽しいね

蓮池幼稚園

子どもたちは、友達と考えを出し合いながら遊びを進めていきます。
ときどき、考えが違ってけんかをすることもあるけれど「やっぱりさみしいな...」。勇気を出して「ごめんね」って言ったら、お友達も「いいよ。めんね」って言ったら、同じ気持ちだった。ごめんね。言ってよかった。うれしいな。



子どもたちは、自分の思いを相手に伝えたり受け入れたりしながら、友達の思いに気付いていきます。相手の気持ちに気付いていくことができたなら素敵ですね。



子どもたちは、自分の思いを相手に伝えたり受け入れたりしながら、友達の思いに気付いていきます。相手の気持ちに気付いていくことができたなら素敵ですね。

修学旅行



▲マレーシアの家族と一緒に

播磨南高等学校

私たち24回生は修学旅行でマレーシアを訪れました。ほとんどの人が初めての海外で不安もありましたが、いろいろなことを学べた充実した5日間でした。

一番印象に残ったホームビジットでは、日本との文化や習慣の違いを学びました。現地の人と直接触れ合い言語も全く違う場所で生活することは、すごく難しいということが分かりました。しかし現地の人はとても親切で、全員が楽しいと思えた時間を過ごせたと思います。クアラルンプール市内別研修では年齢の近い学生の方たちに案内してもらいながら、マレーシアのいろいろな所を観光しました。各班自分たちであらかじめ立てておいた計画をたよりに学生の方と協力しながら楽しく観光できたと思います。この5日間は無事なことや慣れないこともありましたが、すごくいい思い出となりました。

保育園に消防車と救急車が来たよ!



▲救急車の中ってこんな風なんだあ

播磨保育園

消防車や救急車を子どもたちが身近に見て、触って、体験する消防教室に参加しました。園庭に消防車が入ってくると、「めっちゃカッコいいなあ!」と目を輝かせて大喜びの子どもたち。「ホースってどれくらい長い長さがあるの?」「なんで消防車って赤いの?」など、子どもたちの質問に消防士さんが分かりやすく答えてくれました。年長児は、少し重かったけれど消防服を着てかわいい消防士さんに変身。ホースをしっかり持って放水にも挑戦しました。また救急車にも乗せてもらい、車の中にたくさんのおもちゃがあることにびっくり!楽しくいろいろなことを知ることができました。

最後に火事を起こさないように気をつけることをみんなで約束しました。

